

5月8日、登別市出身で世界に通用する唯一無二の津軽三味線アーティストとして活躍する登別市ふるさと大使の『吉田兄弟』は、6月に実施する登別凱旋公演を控え市を表彰しました。

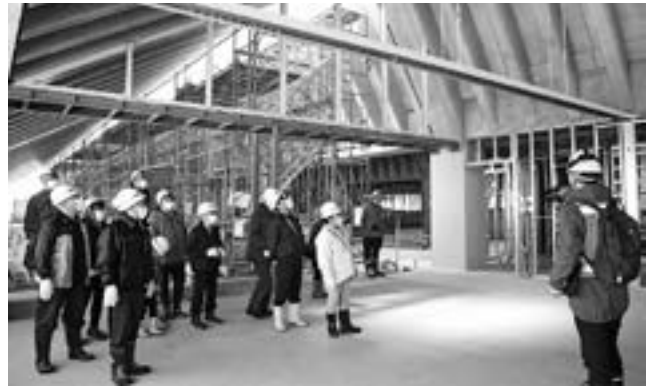
凱旋公演『47都道府県ツアー「極生」』はスピーカーなどを使わず津軽三味線の生音のみで迫力を体感する特別公演です。

二人は、『プロ奏者吉田兄弟として登別市で公演を行う初の試み。津軽三味線が奏でる音圧をぜひ会場で肌感じてもらいたい』と意気込みを語りました。

※公演の詳細は26ページをご覧ください。

6月の登別公演に向けて
ふるさと大使『吉田兄弟』が市を表彰

5 / 8



▲新庁舎を見学する市民



▲『吉田兄弟』およそ15年ぶりの表彰

5月9日、市教育委員会はボランティアグループSLGと共催で、第3回郷土資料館まつりを開催しました。

小雨の中でのスタートとなりましたが、多くの家族連れなどが参加。小鳥の鳴き声に似た音を鳴らすバードコール作りや、アイヌ文様の切り絵・流鏑馬・昔の遊び・せんべい焼き体験などが行われました。

流鏑馬体験では、今年新調した木馬の上で、子どもたちが力強く弓を引く様子が見られました。参加者は普段触れる機会の少ない体験などを通して、楽しく歴史や文化について学びを深めていました。

歴史や文化を楽しく学ぶ
第3回郷土資料館まつり

5 / 9



▲力強く弓を引く参加者

新庁舎をひと足先に
本庁舎建設工事の市民見学会

4 / 25

4月25日、市は市役所新庁舎の建設工事の様子を市民に確認していただき、事業への理解と関心を高めるため、市役所新庁舎の市民見学会を開催しました。

安全のためヘルメットを着用した計21人の参加者は、正面玄関から新庁舎に立ち入り、初めて目にする庁舎を興味津々で眺めながら、職員の説明に熱心に耳を傾けていました。

見学会の終了間際には、新庁舎について数多くの質問が投げかけられ、新庁舎への関心の高さを感じられた見学会となりました。



▲『背負い式消火水のう』訓練を行う団員

春の全道火災予防運動
消防職団員合同放水訓練

4 / 26

4月26日、登別市消防本部と登別市消防団は火災を想定した訓練を実施しました。

訓練は、4月20日から30日までの『春の全道火災予防運動』にちなみ、消防職員と幌別分団・鷺別分団の各消防団員が連携し、2階建て一般住宅の建物火災を想定した消火活動を行いました。

また、1月から林野火災注意報・警報の運用を開始したことを機に、林野火災発生時に消防車両が入ることができない山間部や急斜面での放水活動を行う『背負い式消火水のう』の使用訓練を行い、林野火災の対応を確認しました。